

## 過疎地域持続的発展計画（素案）に対するパブリックコメントの結果について

### 1 意見募集の概要

題名	過疎地域持続的発展計画（素案）
公表の日	令和3年9月27日（月）
意見提出期間	令和3年9月27日（月）から10月22日（金）まで
町民への周知方法	町内公共施設およびホームページ
結果の公表日	令和3年11月25日（木）

### 2 結果の概要

意見数（提出者数）	6人
インターネット	4人
郵送	1人
直接持参	1人
ファックス	0人
無効な意見提出	0人

### 3 提出意見の区分

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、案に反映したもの	4件
B	案に反映しないもの	0件
C	今後の参考やご意見として承るもの	31件
合計		35件

### 4 具体的な内容（意見は原文のまま掲載しています。ただし、項目立てや個人名の削除など、提出者の意思に影響しないよう一部修正を加えています。）

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
1-1	7	<p>【基本的な事項】3町行財政の状況（1）行政の状況</p> <p>7000人の町民への行政を提供するにあたり、近年の多様化・高度化に耐えうる行政サービスを提供し続けるには98名の職員で対応するには限界があると考えます。予算も数十億規模しかないのも、様々な行政サービスが高度化に向かうための投資としては、大きなことがほとんどできません。（民間企業の一部署と変わらない規模に見えます）</p> <p>行政サービスにおける様々なリスクを回避するうえでも、現状の規模では問題があると考えます。</p> <p>つまり職員にとっても、町民にとっても現在の組織の規模での運営を続けることは、お互いに不幸であると考えます。</p> <p>（このまま継続することによるリスクを職員の皆様がどう考えられているのか聞きたいです）</p> <p>一般的には1,000名以上、3,000名以上の組織で大企業といわれるものと考えます。民間企業では、近年のお客様のニーズの多様化・高度化、グローバルな競争に耐えうるため、大きな単位での組織の統合・合併が続々と進んでいます。少なくとも私は就職してからこの20年間で何度も会社の統合を経験して、成長してきました。</p> <p>行政も同様に、1,000名以上、3,000名以上の組織でサービスが提供できるような運営を検討しませんでしょうか。</p> <p>なお、湯河原町、箱根町、真鶴町の3町を全て足しても1000名には達せず、小田原市、湯河原町、箱根町、真鶴町を全て足して3000名を超えるようになります。開成・松田・山北・南足柄を加えてざっくり3600名になります。</p> <p>各自自治体でのこの先の急激な人口減少を鑑みて、職員数も減る見込みの中、一緒になっていてもおかしくない規模です。</p> <p>合併に伴い、職員の方々にはご苦勞をかけるかもしれませんが、行政の組織を成長させるためにもこのような方向性も検討いただきたいと考えます。</p> <p>少なくとも、40代の方々は、以下の地域が高校時代に同じ学区の人たちという意識があり、一緒になっても違和感を感じません。（注意点として、小田原と南足柄だけ、真鶴と湯河原だけという粒々の合併を行っても以上に述べた理由からメリットは感じません。）</p> <p>職員数と予算（ここ数年のデータを参考）</p> <p>小田原市・・・2,239名、湯河原町・・・310名、箱根町・・・431名、開成町・・・123名、松田町・・・104名、山北町・・・140名、南足柄市・・・270名</p> <p>これを実現するには、様々な方向性があるかと思えます。</p> <p>1) 上記全て一緒になった新たな市としての令和の大合併</p> <p>2) 現行のままで、各組織の機能のみ統合するマトリックス型の組織とする</p> <p>私としては、現在の松本町長が区長になり、職員の方はそのまま継続するかたちで1)を希望しています。</p> <p>さいたま市を例にとると大宮や浦和は合併しても区として存在を感じます。</p> <p>2)は無駄な投資や管理コストが発生する懸念があります。他にも3)、4)案と様々にあると思いますが</p> <p>より良いサービスを考えるうえで、組織の在り方そのものを、神奈川県西部全体で検討に入る時期が来たと考えており、ぜひともご検討いただけないでしょうか。</p>	C	<p>ご指摘のとおり、全国的に職員数の削減が進み、本町及び周辺自治体においても同様の傾向にあります。</p> <p>職員数が減ることで住民サービスが低下しないよう、自治体間の連携も進めていきます。</p>

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
1-2	7	<p>【基本的な事項】 3町行財政の状況 (1) 行政の状況</p> <p>”1980年代後半のリゾートマンション開発から町を守るため「真鶴町まちづくり条例・美の基準」を制定”とのことだが、良くも悪くもこれが町をミスリードした一番の問題と考えます。結果、人口は減り、観光客も増えず、町の産業も衰退しています。美に傾倒した孤高の「美の基準」ゆえに、多くの人が離れていく原因を作り出したと考えており、20年以上経過した「美の基準」で大切に守るべき美と、そうではない発展・成長が必要とされる美とで見直しが必要と考えます。</p> <p>例えば、真鶴町の町営住宅付近をご覧ください。この地域は「美の基準」と何の関係があるのでしょうか。水もしっかり確保されており、マンションが乱開発されるほどのポテンシャルもなく普通の郊外にある住宅地と何ら変わりありません。この地域と、真鶴漁港と一緒に考えてはいけないと思います。</p> <p>美の基準景観保存区域と、そうでない区域のメリハリをつけてほしいです。</p> <p>つまり、守るべき美の地域と、そうではない地域ときちんと分けて整備していくことが必要と考えます。</p> <p>P17、P22にある、地域間交流・人材育成や観光観点での美の基準は賛成ですが、日常的に生活圏にある真鶴町の町営住宅付近は美の基準とは遠い地域であると考えており、「美の基準」の改版・改良に触れられていないため、危惧・問題提起いたします。</p>	C	<p>「まちづくり条例」は真鶴町が大切にしてきたまちづくりの基本です。しかし、ご指摘のように時代の移り変わりに合わせた見直しには至っていません。持続可能なまちであるために、どのような内容が必要か、今後検討していくこととします。</p>
1-3	17	<p>【第2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成】(1) 現況と問題点 ①移住・定住</p> <p>「新たな人の流れ」をもたらす、真鶴へ行きたいと思う「目的」づくりが、真鶴町の重点施策であると考えます。</p> <p>真鶴町で、普通ではあり得ないユニークで魅力的な条件で、楽しめる環境を今後整えていく必要があると考えます。</p> <p>SNSを始め、インターネットで一気に拡散され、真鶴町に親しみを持っていただけるものと期待しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩大橋 で年に1回、マラソンや自転車走行できないか</li> <li>・岩海岸、真鶴漁港や駅近の荒井城址で、自由にBBQしたい</li> <li>・旧東海道本線の廃線跡地を、安中市の眼鏡橋みたいに解放して欲しい</li> <li>・白銀林道、小田原湯河原広域農道、または県道を使って、真鶴・湯河原・小田原市合同でマラソン大会を開催してほしい</li> <li>・ドローンを自由に飛ばせる場所を開放してほしい</li> <li>・ドローンライトショーを見たい。真鶴だと鶴？</li> </ul> <p><a href="https://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/technology-innovation/aerial-technology-light-show.html">https://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/technology-innovation/aerial-technology-light-show.html</a></p> <p>「たくさんあります」と表現されているので、ほかの自治体の歴史が浅いと言われているようにも読み取れました。</p> <p>『真鶴が長年にわたって独自に築き上げてきた歴史がある』『唯一無二の歴史』と主張するのであれば、理解できます。このままだと誤解を生みそうなので指摘させて頂きました。</p>	C	<p>「新たな人の流れ」をもたらす、真鶴へ行きたいと思う「目的」づくりに向けて、参考にさせていただきます。</p>
1-4	18	<p>【第2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成】(2) その対策 ①移住・定住</p> <p>他の自治体よりも有利な対策が見えません。コロナ以降状況が変わってきたため、サテライトオフィス…オフィスが無くても在宅できる、空き家バンク・・・不動産屋さんへ聞けばよいのでは？と思いました。</p> <p>具体的には移住・定住促進につながる、「税制優遇策」や「補助金」が必要と考えております。</p> <p>移住することで税収は増えますので、移住者へそれなりの優遇策は他の自治体でも行っていますので必要と考えます。</p>	C	<p>空家バンクについては不動産市場に上がらない物件の開拓を目指し、移住推進及びサテライトオフィス誘致については、補助金誘致より公民協働で地元受入れを側面支援することを重視し、地元との共生を大事にした取り組みを行ってまいりました。人口の社会増に到達した今後も、ご意見をふまえ、地域の独自性を大切にしたい事業を推進していきます。</p>
1-5	23	<p>【第3 産業の振興】(2) その対策 ④商工業</p> <p>「真鶴町商工会と連携して、国や神奈川県等の融資制度やセミナーなどの情報を商業者に提供できるようにする等、地域経済を活性化させるための環境の整備を推進します」とあるが、ふるさと納税など、すぐに効果の出る対策を早急に整えてほしい。融資制度やセミナーでは即効性がないので危機感もないと読み取れました。</p>	C	<p>商工会などの関係機関と連携して、融資制度や事業承継に係るセミナーの紹介など、事業者の存続に必要な取り組みの他に、特産品の開発事業なども実施しており、今後も引き続き地域経済の活性化に資する事業を進めてまいります。特産品の開発事業で作成された製品はふるさと納税の関係課と連携し、返礼品として使用できるかを調整中です。</p>
1-6	32	<p>【第4 地域における情報化】(2) その対策</p> <p>「Wi-Fi等の公衆無線LANの整備促進」とのことだが、セキュリティ上、公衆無線LANがあちこちにあっても心配です。Wi-Fiは何のための必要か明確にしてほしいです。</p> <p>少なくとも、真鶴町の実家インターネット回線で、テレワークするには問題ない状況です。</p>	C	<p>公衆無線LANについては、外国人も含めた観光客の利便性向上を目的としています。</p> <p>Wi-FiについてはポケットWi-Fiも含め検討してまいります。</p>

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		ドコモ、au、ソフトバンクどれも真鶴町内で圏外になるような場所がありますでしょうか。 今となってみればWi-Fiが無くとも困らないと思います。 ポケットWi-Fiの貸し出しを真鶴町で行ってくれるのでしょうか。 恐れ入りますが、Wi-Fiは必要性が理解できませんでした。 防災拠点における非常用電源や、防災行政無線の戸別受信機の設置であれば、必要性を理解できました。		
1-7	35	【第5 交通施設の整備、交通手段の確保】 [公共交通]でバスのことしか書かれていません。 年々真鶴への鉄道の本数は削減されており、そもそも真鶴駅は踊り子号が止まりません。 通勤快速・湘南（旧湘南ライナー）も小田原までしか行きません。 『新幹線お出かけきっぷ』で東京～小田原も以前は一人で買えましたが、二人以上になってしまいました。 <a href="https://jr-central.co.jp/news/release/nws001244.html">https://jr-central.co.jp/news/release/nws001244.html</a> この弱点に関する対策が何一つされていません。大きな痛み・不利な条件にもかかわらず、何一つ書かれていません。 新幹線を使うと、片道3,450円ではなかなかリピートしづらいです。（検索を誤ると熱海経由で真鶴に行くルートも出てきます） 踊り子や東海道線を使わず、東海道線だけしか選択肢がないのは旅行者として辛いです。 JRの商品として真鶴が外れており、広告で真鶴を見かけること、JRのパンフレットで見ることも少なくなります。 つまり、真鶴町へ来る目的・きっかけが減ります。コロナの影響で鉄道を取り巻く環境も大きく変化しており、 今後は真鶴がこのような路線でも利用できるようにJRに対する継続的な申し入れ・提案も町の活動として、正式に掲げてほしいです。	A	ご指摘のとおり、鉄道も真鶴町と町外を繋げる重要な公共交通であることから、「(2) その対策 ②公共交通」において、鉄道を含めた公共交通の定期的な事業評価・見直しを行っていくよう修正します。また、これまでも実施してきた鉄道事業者への申し入れや提案についても、引き続き実施してまいります。
1-8	62	【第7 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進】(4) 公共施設等総合管理計画との整合 旧岩小学校のグラウンドはどのような用途とするか	A	計画に旧岩小学校のグラウンドについての記述を追加し、岩地区周辺の公共施設全体の在り方から、検討を進めていきます。
1-9	63	【第8 医療の確保】(1) 現況と問題点 ①診療施設 老後に真鶴に住むうえで、医療の確保が最大の課題と考えます。 医療の脆弱性が真鶴から離れる一番の要因と考えております。 「入院施設のない真鶴町においては、広域連携のネットワークの形成も必要です。」と後付けのように書かれているが一番重要な課題としてとらえる必要があると考えます。 今後は、サテライトオフィス（そもそもNTTもテレワーク前提の方針）よりも、病院を誘致することがより重要な課題であり、税制優遇策、町の活動として各病院へのプロモーション活動等、正式に掲げてはいかがでしょうか。	C	ご指摘のとおり、医療体制の充実が高齢者が住みやすく、安心して生活していくうえで重要な要因であると考えますので、既存の医療機関の訪問診療等の体制充実にも併せ新たな医療機関の誘致に対しても検討してまいります。
1-10	67	【第9 教育振興】(1) 現況と問題点 ②学校教育 「真鶴町の学校施設は、幼稚園が1園、小学校が1校、中学校が1校となっています。」とありますが、「横浜国立大学 臨海環境センター」について何も触れていません。大学まで考えて学校教育を見据えるべきです。 私は東京都内の大学に通いましたが、卒業してからも都内の同級生とつながりがあり、真鶴から離れる原因になっていると考えております。もし横浜国立大学をはじめとした神奈川県内の大学に通っていたら、状況が変わっていたと想像されます。 「横浜国立大学 臨海環境センター」の存在を知っていたら、通っていたかもしれません。 小学校・中学校から横浜国立大学をはじめとした神奈川県内の大学との関わりをもつことで、高校以降の進学の実績として、県内の大学に親しみをもち、進路として考慮するように仕向ける制度を整えるべきかと考えます。 第一に横浜国立大学を始めとした県内の大学と、小・中学校との交流行事を通して、将来の進路選択に役立て 第二に県内の大学へ真鶴町から通学する生徒がいるご家庭や、県内の企業に就職した若者がいるご家庭は、通学費用の一部負担や、税制優遇策の制度を整えて推進してはいかがでしょうか。 お金の面でメリットがないと、どうしても小田原や熱海・湯河原に流れる傾向にあると考えます。	C	真鶴町の教育の特徴として、「ふるさと教育」を推進することを計画で掲げています。その中で、海を生かした教育活動において、小学校の総合学習の時間に、横浜国立大学 臨海環境センターの施設をお借りして、先生による授業等を実施をしています。また、横浜国立大学臨海環境センターの実習船に乗船して、プランクトンや海水を採取し、実習室をお借りしての観察、大学教授による海のお話しをしていただく事業を実施するなど、様々な場面で「横浜国立大学臨海環境センター」のご協力をいただいています。現状は、他の県内の大学との交流行事、県内大学への通学費用の助成等は難しい状況ですが、今回いただきましたご意見を参考にさせていただきます。今後も様々な活動を検討してまいります。
1-11	90	【第13 その他地域の持続的発展に関し必要な事項】(3) 計画 ふるさと応援寄附金事業 「ふるさと応援寄附金事業」に関して内容が薄いため、今後の展開を心配しております。 「神奈川県各市町村別ふるさと納税ランキング」によると <a href="https://www.tokyo-np.co.jp/article/125571">https://www.tokyo-np.co.jp/article/125571</a> 神奈川県と県内三十三市町村への2020年度の寄付額は百二十七億三千五百万円に対して、真鶴町への寄付は下から数える程度になっています。ふる	C	ふるさと納税の返礼品について魅力的な商品・使い勝手の良い商品を商工会や観光協会と連携して検討してまいります。例示されました内容についても参考にさせていただきます。また、申し込みサイトについても検討を進めます。

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		<p>さと納税は真鶴町を離れた人間が、納税を通して町へ恩返しするのに役立てられますが、魅力的な商品・使い勝手の良い商品がありません。神奈川県西部の観光地としてポテンシャルがあるにもかかわらず、結果が出ていません。重く課題認識としてとらえて、商品の見直し、申し込みサイトの拡充、推進体制の見直しを検討すべきです。</p> <p>1) 商品の見直し 真鶴町で幅広く使える商品として「南伊豆町ふるさと寄附感謝券」のような<a href="https://www.furusato-tax.jp/product/detail/22304/690039">https://www.furusato-tax.jp/product/detail/22304/690039</a> 町内の宿泊、飲食、お土産に利用できる地域振興券があれば、毎週末に真鶴町を通過する観光客は多いため、町内で柔軟に役立てられると考えております。</p> <p>個人的に思いつく限りでは、例えば真鶴駅周辺の店舗「富士食堂」「KENNY」や、「そば処山本」で使えるふるさと納税はありますか？ないと思います。真鶴町で代表的な飲食店の一つと思いますが、ふるさと納税が何一つとして対応していないのはとても残念です。</p> <p>個人商店単位でふるさと納税の商品となると、他の自治体に負けてしまうので、真鶴町で広く使える用途でふるさと納税できれば観光地ゆえに魅力は高まると考えます。</p> <p>特に、コロナの影響で、飲食店は生きるか死ぬかの今年が正念場と認識しており、ふるさと納税を通じて、早急に飲食店等が息を吹き返す対策が必要と考えております。</p> <p>さらに、宿泊、飲食、お土産に限らない例として以下を挙げます。 例えば、千葉県東庄町では「シルバー人材センターご利用チケット（除草作業）」もふるさと納税として利用できます。 <a href="https://www.furusato-tax.jp/product/detail/12349/4773381">https://www.furusato-tax.jp/product/detail/12349/4773381</a> 除草作業や大工・工務店などでも、町外に住んでいても、ふるさと納税を通して、真鶴町の人材を活かした様々な分野で作業を依頼できないかとも考えております。</p> <p>2) 申し込みサイトの拡充・・・「さとふる」しかない ふるさと納税といえば、「ふるさとチョイス」「楽天」など毎年個人によって利用するサイトが異なります。しかし真鶴町は申し込みできるサイトが「さとふる」に限られているためとても不便と感じており、やる気も感じられません。神奈川県内でも納税が少ない要因になっていると考えており、現状に甘んじている典型例と見えました。</p>		
2-1	79	<p>【基本的な事項】10集落の整備 (2) その対策 宅地・住宅について 先ず家を建てるのには大きな3つの法律に関わります。 ①都市計画法（用途地域、建ぺい率、容積率等）S43年～ ②建築基準法（前面4m以上の道路に間口2m必要等）S25年～ ③宅地造成規制法（擁壁切土高さ1m、盛土高さ2m以上の宅地には規制等）S36年～ 真鶴の街並みの多くは上記①～③の法律ができる前から存在していますので、道路への接続要件もなかった、ある意味何の規制もない中での建物が多いです。法律が出来た時代は少しの間は曖昧でした。度重なる地震により厳格になり、年々厳しくなっています。</p> <p>「真鶴町まちづくり条例」は上記①に蓋をかけた感じです。問題は上記②要件もそうですが、真鶴の場合には問題は前項③です。自然石の間地ブロックが景観を良くしている真鶴はその間地ブロックの上にある宅地も多く高さ1m又は2m以上あると擁壁を造り直さないと建築許可が下りない宅地が多いのです。関東大震災にも耐えた自然石のブロックは頑固な事は分かっていますが、2構造的な計算が出来ないために高さがあるものは規制が掛かります。構造計算が出来る又は構造計算をしたある、人口ブロック又は鉄筋コンクリート造に造り変えなければなりません。その観点から考えると、町全体に道路問題と擁壁問題で現状のままだと再建築不可の宅地が本当に多くあると思います。これは港周辺に限られません。再建築不可の不動産の価値は無に等しいです。真鶴の景観が良いと移り住んで来る人たちは主に港の周辺の景観を言われていると思います。前項3つ法律が出来た前の昭和初期の景観を守るために2065年にどれだけの人が住むことが出来る住宅宅地が残るでしょうか。江戸初期からの歴史ある古都とか、地価が高い東京都港区とかの同じような立地にある再建築不可の宅地建物とは訳が違うことを感じてください。</p>	C	「まちづくり条例」は真鶴町が大切にしてきたまちづくりの基本です。しかし、ご指摘のように時代の移り変わりに合わせた見直しには至っていません。持続可能なまちであるために、どのような内容が必要か、今後検討していくこととします。
2-2	42	<p>【基本的な事項】6生活環境の整備 (2) その対策 ②下水道施設 下水道について 下水道は大失敗だと思います。2065年になっても真鶴の地形的は変わらず、工事にも莫大な費用が掛かることも変わらないと思います。例えば全面道路に下水が通っても、おそらく神奈川県でもしかしたら国内で一番高額な水道料金を今の3分の1以下にしない限り、下水道に接続しない可能性は大です。なぜならば下水道料金は水道料金に比例して料金が掛かるからです。それに大きな理由は日本全国どの市町村も下水道接続は強制では</p>	C	真鶴町は他市町村に比べ下水道供用開始が遅く、下水道への接続率も低い状況となっております。現在の下水道計画を見直すことは可能ですが、隣町と広域連携事業として実施しているを踏まえ総合的に検討してまいります。

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		なく、個人の任意だからです。初めから地形と水道料金高額は下げられない事は分かっていたので、この様な結果は見えていました。下水道工事が完成した地域で新築以外の既存住宅で下水道接続工事をして何割ぐらいの住宅が接続しましたか？初めから山中湖村の様に合併浄化槽にすれば良かったのです。今からでも見直しをして、中止をして、合併浄化槽又は集中合併浄化槽への転換をするべきです。下水道は50年経っても全く進展はないと思います。具体的には地形的に密集している場所には何件か集めて特例で前面町道又は町有土地に集中合併浄化槽を埋設する。その為に計画的に不要な住宅地一部を町所有地としていく。どうしても敷地内に浄化槽を埋設出来るスペースがない場合には特例で前面町道に合併浄化槽を埋設出来るようにする。その場合には通行に支障がないように蓋として鉄板とかを敷き埋め込むとかする。同時に海に繋がる排水管はなるべく集中させて漏らさず何らかの浄化をする。これが出来た場合には真鶴の港と海の周辺の海は沖縄の海の様になると思います。ギリギリ首都圏のこの海の為に移住する人は必ず増えます。一度決めたことは止められない、一度決めたことは変えられない、が日本の行政だと思いますが、人間が決めたことは全て撤回変更できます。		
3-1	18	<p>【第2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成】(2) その対策 ①移住・定住</p> <p>子育てや定住者の増加を目的に、新しい荒井城址公園の改良を提案します。</p> <p>町内には子供が遊ぶ場所がなく、別の町の公園へ車で行くのが現状だと捉えています。</p> <p>私自身、良い公園のある町は子育てに熱心であるイメージがあり、住みたくなります。</p> <p>これまでとは逆に遊びに来たくなる公園があれば、ひとつの強みになるのではないかと思います。</p> <p>子供が何度も遊びに行きたくなる公園としては、中井町の「中井中央公園」や下多賀の「長浜海浜公園」が良い例になるかと思います。</p> <p>詳細は下記の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒井城の外観は史実にも残っていないようですが、城を模した大きな遊具(内部を登れて長い滑り台で降りられる)の設置。</li> <li>・船や魚を模した遊具の設置。</li> <li>・幼稚園や保育園に協力してもらい、新遊具に色付けや絵を描いてもらう。</li> <li>・美大に協力してもらい、新遊具の造形をしてもらう。</li> </ul> <p>「新しい世代の感性」と「外部からの感性」を取り入れ、みんなで新しいものを作る。</p> <p>町作りにも共通する、今の真鶴に必要な事かと思います。</p>	C	公園のあり方については、町民の皆さんと一緒に検討を始めています。いただいたご意見も参考にさせていただきます。
3-2	21	<p>【第3 産業の振興】(1) 現況と問題点、(2) その対策</p> <p>町が運営する通販サイトの開設を提案します。</p> <p>コロナ禍で世の中が変わり、現地に人を呼ぶという当然の事が難しくなりました。</p> <p>これは現在を乗り切れば何とかなる問題ではなく、今後人々の行動には何らかの制限がかけ続けられる事と予想します。</p> <p>そんな中でインターネットを活用した商売を実施しようとした方も大勢いると思います。</p> <p>ただ、HPの開設等を個々で実施するには知識面・費用面の壁があり諦めた方も大勢いると思います。</p> <p>事業者によってはHPを持ち、通販に対応している企業もありますが、それを一つにまとめてしまえば良いと思いました。</p> <p>イメージはオンライン上で行う「なぶら市」です。町は場所を提供し、事業者が出店します。</p> <p>人や物のコストが下がり、天候の影響も受けません。</p> <p>前提として、町と事業者いずれかの負担が極端に大きくなる案はできるだけ避けたいです。</p> <p>詳細は下記の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・購入対象者が日本全国に広がる。</li> <li>・町内の事業者は掲載無料。</li> <li>・掲載/発送作業は各事業者が行う。</li> <li>・収益の数%は、HP管理費として町にバックする</li> <li>・HPを持つ事業者も、コスト削減につながる可能性がある。</li> </ul> <p>※「収益の数%」と「現在のコスト」を天秤にかけ事業者が判断する必要がある。</p> <p>神奈川で唯一過疎地指定されている事をチャンスと捉え、メディアを呼び寄せ放送された際の反響はこれまで以上になるかと思います。</p>	C	ICTの活用は今後ますます重要になると考えております。一方で、既に民間で立ち上がっている事業に行政が参入することで、事業を圧迫させないことも大切です。ご提案の内容については、商工会、観光協会などと共有させていただきます。
4-1	68	<p>【第9 教育の振興】(2) その対策 ①社会教育</p> <p>中川一政美術館、貝類博物館については会館日数等従来と状況が異なる中で「新規の利用者来館の獲得に努める」という従来通り目的にだけ終始していいのか。施設のコストパフォーマンスと相いれない価値観を背負っている両施設だと思いが抜本的な将来にわたるあり方の検討が今後必要と思う。</p>	C	町の現在の財政状況を考えると、両館が赤字幅の大きいまままで運営していくことは厳しいと思われ、収益の確保に努めていくことは大切だと思います。ただ唯一無二の特色を持つ

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
				ている両館なので、そこを全面的に生かしながら、将来に向けてのビジョン作りを進めていきます。
4-2	68	【第9 教育の振興】(2) その対策 ②学校教育 単級、学級数の減少は少人数学級などの実現により逆に魅力的な教育環境の充実も可能である為「適切な配置」ではなく真鶴ならではの教育環境を検討する方向にしたほうが良いと思う。	A	ご意見をいただきましたとおり、単級、学級数の減少は決してデメリットのみではなく、よりきめ細やかな教育を展開できる面もあることから、68ページの②学校教育 下から4, 5行目「また、今後学級数の減少に伴い教員が減少していく中で、きめ細かな指導を継続させるため、町非常勤講師等の適切な配置を図っていきます。」の文言を「また、今後学級数の減少に伴い教員が減少していく中で、小規模校として、よりきめ細かな指導を実施し、真鶴町ならではの教育環境を検討していきます。」に改めます。
4-3	82	【第11 地域文化の振興等】(1) 現況と問題点 伝統的な文化行事の後継者の育成が課題になっているが後継者の育成を図るためにも町民が地域文化を誇りに思う取り組みが必要ではないかと思う。一方で地域文化を町外から親しまれるようにする取り組みも必要だ。	C	伝統文化行事に指定しているものについては、毎年、町から各行事の保存会に対して補助金を出しており、後継者育成や用具の補修等に充てていただいております。今後は保存会がSNS発信したりして、町内外への広報に努めるようにするといった取組みも行っていくよう必要な助言もしていきます。また役場のHP、町広報からも情報発信するよう努めます。
5-1	18	【第2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成】(2) その対策 ①移住・定住 移住・定住対策として「子育て支援対策の充実や身近な公園づくりといった子育て世代を中心に安心して楽しく生活できる環境を創出します」とありますが、それに対応する事業計画と目標値が無いように見受けられます。サテライトオフィスの推進等による新規移住者に対する事業は良いと思いますが、子育てのために真鶴町に帰ってきたいな、という出戻り移住者への事業計画があっても良いのではないのでしょうか。町外に住む真鶴町出身者の移住をターゲットに、子育て支援対策を発信するなどの方法で移住・定住をアピールしてはいかがでしょうか。 私は妻が真鶴町で育ち、妻やその家族の話聞いて、子育てのために真鶴町の環境が素晴らしいと感じて移住しました。そういった魅力を町が創出、発信する事業があってほしいと思います。	C	子育て環境向上の一つとして、住民の皆様と公園のあり方について検討を始めています。こうした公民協働で住みよい環境を一緒につくることを積み重ねると共に、その情報を発信し、Uターン者の増加にもつなげていきます。
5-2	23	【第3 産業の振興】(2) その対策 ③水産業 3, 岩ガキ養殖について、真鶴町のブランド商品の確立とありますが、ブランドとして確立するためには、流通→認知→ブランド化が必要だと思います。現在「鶴宝」の流通は町内と近隣市町に限定されていると思います。ブランドとして確立するための十分な出荷量が確保されているのでしょうか。 またブランド化するためには真鶴町＝牡蠣の町という認知が必要ではないのでしょうか。例を挙げると、全国B1グルメ大会の様な、牡蠣品評会を真鶴町で開催するなどの事業があるとよいのではと感じます。事業計画にも「観光業等への波及効果を促し」とありますので、品評会を通じて観光客の創出にもつながるのではないのでしょうか。	C	鶴宝の価値を下げずに出荷量を増やしていくことがブランド化につながると考えており、R4年度から町内業者に限定せず出荷していく予定であり、R3年度の出荷を踏まえ出荷量は十分に確保されています。今後全国的な認知をめざし、シーフードショーなどのへの出店も視野に入れ、計画していきます。
5-3	24	【第3 産業の振興】(2) その対策 ⑥就業の促進 6, に記載のある創業希望者のターゲットは「アーティスト」「知的創造産業」「IT関連産業のサテライトオフィス」ということでしょうか。そのうち町内雇用者数の増加を見込めるのは「知的創造産業」「IT関連産業のサテライトオフィス」と思います。これらの創業希望者、経営者としては、ネットワークインフラの充実、働き手とのマッチングのしやすさ、固定費の削減が図れるか、などを重要視されると考えます。 空き家活用の計画が散見されますが、ネットワークインフラを整備した空き家や町内の就業希望者データベースの作成など、目的に合致した計画の策定が必要ではないでしょうか。 そもそもこれらの事業計画が見受けられませんので、事業化が必要と感じました。	A	移住定住分野において掲載しているサテライトオフィス誘致等の事業において、インフラ整備等の必要性を反映していきます。
5-4	34	【第4 地域における情報化】●目標値 目標値としてホームページのPV数が設定されていますが、各事業計画とPV数の関連性が分かりません。 32ページに「真鶴町の区域外には、公式ホームページ等を利用しあらゆる人に対して真鶴町の魅力を積極的にPRし」とありますが、公式ホームページとは真鶴町のホームページでしょうか。 この場合、ユーザーは「真鶴町」と検索エンジンに直接入力をしてアクセスすることになると思います。さらにユーザーは自らホームページにアクセ	C	公式ホームページは真鶴町のホームページを指しています。SEO対策やSNSの運用については、今後の課題とさせていただきます。

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		<p>スをして、目的の項目を探さないといけないため、真鶴町を知らない人に魅力を届けることは難しいと感じています。</p> <p>一般的にこのユーザー流入を増やすためにGoogle広告(旧Google AdWords) やリスティング広告などのSEO対策、SNS運用と連携した広報施策を実施します。(そのときPV数の変動をKPIに設定することがあります)</p> <p>そういった施策の実施が町の魅力を発信するための「地域の情報化」のひとつではないでしょうか。</p> <p>当該計画にある事業計画は町内や近隣住民に対する情報化と見受けられます。町外への情報化の事業があっても良いのではと感じます。</p>		
5-5	41	<p><b>【第6 生活環境の整備】(1) 現況と問題点 ⑧公園</b></p> <p>8、に公園が「全体的にみて質、量ともに不足しています。」とあり、私も同様に感じています。</p> <p>子供が安心して遊ぶことができる公園を増やしてほしいと切に願います。</p> <p>現状では新井城址公園を利用することが多いですが、奥まった立地、竹林、池などがあり、子供たちだけで遊ぶのは不安だと思います。遊具も少ないと感じています。</p> <p>また、真鶴駅北側には遊具などがそろった公園は無く、新井城址公園か湯河原町まで移動しなければなりません。子育て世代としては子供を遊ばせられる広場や、遊具のある公園がぱっと利用できることが重要です。ちょっと出かけて利用するといった広場や公園が増えてほしいです。</p> <p>18ページに「公園づくり」という記載がありますが、当該計画には公園づくりに関する事業計画が見受けられません。</p> <p>上記踏まえ、大小含めた公園づくり事業の策定を要望します。</p> <p>町外からも利用したくなるような公園づくりも重要と考えます。</p> <p>例えば、近隣市町では小田原市のわんぱくランド、湯河原町の幕山公園が挙げられます。アスレチックやキャンプ、ボルダリングなどのアクティビティが楽しめ、県外からの多数の利用者を獲得しています。そういった好例を参考に、真鶴町の自然環境や本小松石などの石材資源を活用した、様々なアクティビティが利用できる公園づくりを期待します。</p> <p>グランドデザインによる町の活性化。駅前への交通の安全。町へ入る車両と通過する車両の整理、送迎車の駐車場整備、タクシーの逆廻り等、安全性が心配です。</p>	C	<p>令和3年度に、荒井城址公園の利活用を推進するため、事業提案を住民の皆さんから募集しました。住民活動を公園で行っていただき、町はそれを支援していくという新たな公園の活性化について着手しています。今後は、町にある様々な公園に同様の施策を展開していきます。</p>
5-6	53	<p><b>【第7 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進】(2) その対策 ②児童福祉</b></p> <p>2、に「小児医療費や3歳未満の保育料の無償化」と記載ありますが、子育て世代としてはとてもありがたく、今後も継続していただきたいです。こういった制度は真鶴町で子育てをしたい、というきっかけにつながると思います。子育て世代が直接享受できる、このような支援を拡充することが、真鶴町で育ち、町外へ進学、就職した方が、戻り移住をするきっかけになると思います。</p> <p>その視点で見ると、すでに多くの地域で小児医療費は無償化されるような支援が実施されており、差別化が難しいと感じます。</p> <p>子育てが家庭が求める保育サービスニーズの増加を指摘されていますので、ぜひ町民の多くの声を集め施策化していく取り組みが充実することを願います。</p> <p>また当該項目(52~62ページ)において34件の事業計画において、児童福祉、子育て支援等の事業は5件しかありませんので、少なく感じます。</p> <p>児童福祉施設管理事業における「ちびっこ広場」「どんぐり公園」「子育てサロン」について初めて知りました。今度調べてみたいと思いましたが、他にもあるけど知らないサービスがあるので感じますので、子育て世帯に広く周知される施策を要望します。私は真鶴町への移住者ですが、移住者には知らないことが多くあると感じます。転入手続きの際に町役場等で案内をするなどに加え、子育て支援事業としてサービスの広報施策も追加していただきたいです。</p> <p>最後に、目標値に待機児童数0人とありますが、出生数が20人以下の状況であれば、待機児童0人はKPIに不適切ではないでしょうか。</p>	C	<p>子育て支援については、子ども・子育て支援事業計画があり、そちらで全体を網羅する取り組みを掲載しています。広報のあり方については、どのようにしたら皆様に情報が伝わるか、今後の検討課題とさせていただきます。また、出生数は増やしていけるよう取り組んでまいります。出生数が増えても待機児童を出さないという趣旨でKPIを設定しています。</p>
5-7	68	<p><b>【第9 教育の振興】(1) 現況と問題点 ②学校教育、(2) その対策 ②学校教育</b></p> <p>2、現状の人口推移では、記載の通り小・中学校9年間、学級編成が無い教育環境となることが予想されます。</p> <p>その問題点として、人間関係の固定化などが指摘されています。これらの課題解決のためにICT機器の導入を推進するとあります。ICT機器の導入はPC、スマホ、タブレットなどが広く普及した現代では特に当たり前かもしれません。しかし、当該課題に対してはこれらのツールを活用してどんな教育ができるのか、ということが重要と考えます。</p> <p>現代社会においてツールの使い方を学ぶことも重要ではありますが、ICT機器導入の本質ではないと感じます。</p> <p>全生徒がタブレットを利用したから人間関係の固定化が解消されるわけではありません。</p> <p>例えば、今まででは交流し得ない他地域の学級と共同授業が受けられるなどの教育を検討することが必要だと思えます。</p> <p>また、教員数が減少している中で、本件で教職員への負担が増えることも課題となります。</p>	C	<p>ご指摘のとおり、機器を導入して終わりではありません。教職員の負担が増えることも好ましいことではありません。使用するプログラムなどにも工夫を重ね、子どもたちの学習の質が向上するよう進めてまいります。</p>

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		真鶴町として本計画において必要かどうかも含め検討してはいかがでしょうか。		
5-8	71	<p>【第9 教育の振興】(3) 計画</p> <p>中学校での完全給食が未実施になっていることが、長年の課題と聞いています。事業計画にも「真鶴中学校給食の実施の実現に向け検討を行う」とありますが、早期の実施を要望します。</p> <p>学校給食は児童への食育だけでなく、子育て世帯の負担軽減になると考えます。真鶴町で育った方が子育て世代へと成長したときに、少なからず、このことを負担に感じるのではないのでしょうか。今の真鶴町の子供たちが、将来真鶴町での子育てをしたいと思えるような、学校給食の実現が必要ではないのでしょうか。</p> <p>事業計画にあるように、検討の内容を公表し、マイルストーンを策定するなど、具体的な進捗を発表していただきたいです。</p>	C	<p>中学校での学校給食については、計画の通り検討を進めてまいります。具体的な進捗については、住民の皆様とも共有してまいります。</p>
5-9	87	<p>【第13 その他地域の持続的発展に関し必要な事項】全般</p> <p>真鶴町の財政の状況について記載がありますが、9ページの令和元年の財政状況を見ると、歳出総額3,904百万円の内、538百万円が過疎対策事業費に充てられています。これは歳出総額に対して13.8%となります。今後この比率は増加傾向となるのでしょうか。</p> <p>これに対して本計画の事業計画数は169にもなります。当該計画の目的に対してこの事業数は予算に対して適切と言えるのか、分析されておりますでしょうか。</p> <p>歳出総額の約14%程の予算で事業計画を遂行することが困難と分析される場合、当該計画自体が不成立と言わざるを得ません。</p> <p>事業計画の優先順位において、リソースの適切な設定が検討されているのでしょうか。</p> <p>当該計画で扱わなくてもよい低優先事業を当該計画から削除し、実現性の高い着実な計画の策定を希望します。</p>	C	<p>過疎対策事業債だけで進める事業のほか、他の財源も活用して進める事業もあります。また、令和7年度までを見据えた内容となっています。なお、ご指摘のとおり、社会経済情勢などを踏まえ、優先度の高い事業から進めてまいります。</p>
6-1	20	<p>【第2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成】(3) 計画</p> <p>サテライトオフィス推進事業</p> <p>「働く世代の仕事場創出」を目標にするには、現状の事業内容では弱いと感じる。</p> <p>夫婦、家族が生活していけるだけの収入を得られる仕事場は創出できておらず、パート程度の収入しか見込めないため移住の決め手にはなりにくい。</p> <p>移住者の仕事場を創出するためには、都市部企業の「真鶴オフィス」の開設と、暮らしていけるだけの収入と社会保険加入が伴った契約社員/正社員雇用の創出ができなければ本当の意味での実現にはならない。</p> <p>企業のサテライトオフィスを本気で誘致する気持ちがあるなら、戦略・アイデアを知識経験のある民間から登用して実施すべき。</p>	C	<p>具体的な進め方についてご提案いただき、ありがとうございました。民間の力を活用することも選択肢の一つとして検討してまいります。</p>
6-2	22	<p>【第3 産業の振興】(1) 現況と問題点 ⑥就業の促進</p> <p>就業促進</p> <p>『「真鶴町創業支援事業計画」に係る創業24件』</p> <p>の現時点での実態を知りたいし、検証しているのかも確認したい。</p> <p>《生活基盤になりうる創業ができたのか》が大切で、その件数が多ければ、移住者誘致活動の際に実例として大きくPR可能になるはず。</p>	C	<p>計画期間中に、支援件数のうち創業件数24件を確認しています。町では開業届や廃業届を取り扱っていないため、継続している事業者の数を把握することは困難ですが、関係機関に情報提供を依頼するなどして調査が可能か検討いたします。</p>
6-3	32	<p>【第4 地域における情報化】(1) 現況と問題点、(2) その対策</p> <p>地域における情報化</p> <p>本項目を推進するにあたり、役場職員で施策立案ができたり、外部からの提案の良し悪しを判断できる知見のある職員はいるのか。町民には何人も知見を持つ若い世代がいるので、複数名からアドバイスを受ける体制を整えてはどうか。</p>	C	<p>ご指摘のとおり知見のある方と連携しながら、具体策の検討を進めてまいります。</p>
6-4	36	<p>【第5 交通施設の整備、交通手段の確保】(2) その対策 ①道路等</p> <p>道路等</p> <p>神奈川県管理道路を日頃から利用するが、町内自動車・外部の自動車に関わらず、スピードの出し過ぎが気に掛かる。速度制限は超えていない可能性もあるが、「おおみち商店街」で30km40kmで走られると非常に怖い思いをする。また、エフマート前あたりはカーブの出口で速度が高くなりがちで、子どもたちが朝夕横断するのに危険である。細くカーブが連続する箇所でも安全な歩道が確保されていないため子どもを1人で歩かせることに恐怖を感じている。</p> <p>ハンプの設置をぜひ進めてほしい。</p> <p>「引き続き県へ要望する」で終わらせないで欲しい。</p> <p>公共交通</p> <p>コミュニティバスの便数は充分とは言えず、高齢な町民が運転免許証を返納する気持ちにさせられていない。</p> <p>町内では高齢運転者の危険な運転が散見されている。</p>	C	<p>神奈川県が管理する県道は、交通量も多くハンプの設置は難しいと思われれます。</p> <p>コミュニティバスの運行については、1台の車両で運行していることから、便数は限られることについてご理解ください。また、町では、高齢者の運転免許証の返納を促進させる事業として、運転免許を返納した方に対し、バスやタクシーで使用できる無料チケットを配布しており、高齢者の事故防止に努めております。</p>

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
6-5	41	<p>【第6 生活環境の整備】(1) 現況と問題点 ⑧公園 公園 お林展望公園は「観光施設」として位置付けられているとのことだが、観光客が散歩以外で使っているのを見たことがない。公園手前部分の芝生広場はパークゴルフ施設になってからは近隣の高齢者のみが利用し、めっきりファミリーの利用は減り、子どもの遊び場としても使えなくなってしまう。《観光施設という位置付けであれば、デイキャンプ等で町外客が利用したいと思える施設》にするべき。</p>	C	お林展望公園だけではなく半島全体の利用方針の検討に向け課題を整理し、パークゴルフ場だけではなく、別の利用方法を含め検討いたします。
6-6	53	<p>【第7 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進】(2) その対策 ②児童福祉 児童福祉 非常に曖昧な表現が多く、現在何が求められていて、何を改善する必要がある、何が不要なのかの情報収集ができていないと感じる。町外を知っている移住者ママにヒアリングすることで過去の期待と現在の不満と改善希望点を整理できるのではないかな。</p>	C	多くの場で町民からお話を伺うことで、ニーズを反映させた施策を展開し、期待に応えられるように努めます。
6-7	67	<p>【第9 教育の振興】(1) 現況と問題点 ②学校教育 学校教育 機器を購入することは文面から見て取れるが、具体的にどんなことをすることで《グローバルな考えの中で将来の真鶴町の発展に主体的に関わる》人材に育てるのが読み取れない。 目的だけで、具体的手段がなければ、いくら良い機械・機器を購入しても達成できるとは思えない。 IT機器は「道具」であり、黒板→電子黒板になったところで、黒板→ホワイトボードになったことと、何も変わらない。 その道具を導入することでどんな具体的施策ができるようになるのか。どんなカリキュラムを実行できるようになるのか。ハード(道具)ではなく、ソフト(道具を使って何が出来るのか)を先に考えなければ、ただの電気を使う道具で終わる。</p>	C	ご意見をいただきましたとおり、ICT機器を使うこと自体が目的となってしまうことがないよう、ICT機器を活用することによって、調べ学習やグループワーク、遠隔地との交流等、より効果的で、より深い学習ができるよう推進していきます。
6-8		<p>【計画全般】 全体として 予々より現役子育て世代の移住者を増やすには【他にはあまりない魅力的な教育】が重要な役割を担うと考えている。 ICTで特徴を出すなら、IT×農業、IT×漁業、IT×石材業で何が出来るようになるかという事例を学んだり、IoT分野でのユニークな商品を探したり。 地元商店と新商品を企画販売したりネットショップの制作をして地元産品を販売をしたりと、地域社会と関わりながらのカリキュラムだって作れる。 いくらでも未来創造につながる新しいカリキュラムは作れるのだ。 真鶴町には様々なアイデアを持った移住者や真鶴生まれの町民がいる。 学校教育に地域社会、NPO団体、保護者有志グループ、その他外部講師と一緒に作る未来創造カリキュラムを企画実施して欲しい。 またそのために、学校施設の一角にその交流活動サロンスペースを新設して欲しい。 そのくらい特徴的な教育施策がないと、教育をフックに移住検討者は生まれにくい。 そして、新しいことをやるには、不要なものや優先度が低いものは終了させなくてはならない。長く続いてきたという理由だけで惰性で続けていることの廃止も行って欲しい。そうすることで、教員その他関係者の負担も軽減できる。 現役子育て世代の移住者を増やし、子どもの数を増やし、税金を増やし、教育福祉に割く予算も増やして欲しい。 移住者を増やすフックとしての魅力的な教育、そして定住するための十分な収入が得られる仕事場の創出の両方が真鶴町の未来には必要であると考えます。広報広聴の目標指標がHP閲覧数なのは何故でしょうか。例えば各家庭に防災無線スピーカーを配布・販売してその設置台数にするとか、もっと有効な指標があると思います。極端な話、HPのビュー数なら更新ボタン押しまくったり、意味のない増加を全く除外できません。</p>	C	ご提案に共通する「協業による地域づくり」を、移住推進や教育づくり等のあらゆる行政分野で、具体的に取り組む実行段階で反映させていきます。